いつの日か…

あくあ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
いつの日か…

【Ｎコード】
Ｎ１３９５Ｂ

【作者名】
あくあ

【あらすじ】
何も相談してくれない君に、限界を感じていた…

君はいっつもそうなんだ。
強がってばっかりで、自分でため込んで
なんで誰にも相談しないの？
そういうと「何も悩んでないもん。」
笑顔で嘘をつくんだ…君が笑う度、俺は苦しむ。
お願いだから頼ってくれ。
君が好きなんだよ…

「何したんだよ。」
俺の言葉は君の背中に当たる。
振り返ろうとしない君にもう一度告げる。
「泣いてんだろ？何があったんだ？」
動かない…手で涙をぬぐうこともなく、
こっちを振り返るわけでもなく
ただ君の背中は小刻みに震えていた。
なんでなんだよ…
どうして俺に何も言ってくれないんだよ…

俺たち幼馴染みだろ？
俺ばっかり悩み事聞いてもらって
お前は心配かけまいと何も言わない。

「両親のことか？」
椅子ががたっと揺れた。

「やっぱりな…何で何も言わねぇんだよ…」
俺は背中合わせに彼女の後ろの席に腰掛ける。

「……ごめん……」
ごめんじゃねぇ…
そんなこと聞きたい訳じゃない。
ただお前には心から笑っていて欲しい…

「誰にも言わないで、いつかお前爆発するぞ。」
冗談っぽく言ったつもりだが、
君はもっと小刻みに震えだした。

「……ぅん…ごめん……」

「ごめんばっか言うなよ。」
彼女が俯いたのがわかった。

「ごめんって言うなら、俺に相談しろよ…」
苦しかった。
俺は力になれなくて、いらないんじゃないかって
何度も考えちゃうんだ…

「心配かけたく…なくって…」

わかってる…そんなこと。

「でも、何も言われない方が心配なんだよ。」

「……」

君は振り返らないで、俺の手を握った。

「！！」

「ちょっと…甘えてもいい？」

彼女が俺の存在を認めてくれた気がした。

「少しだけ、このままでいさせて…」

俺は頷いた。見えないだろうけど…

時は静かに進んでいく。

お前が心から笑える日まで、

俺はずっと側にいるから…

そしていつか打ち明けたいんだ。

君を愛してる、と…

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1395b/

いつの日か…

2011年1月26日11時57分発行